

歯科処置

多くのワンコ、ニャンコが抱える歯周病を例に当院における歯科処置の流れを紹介します。基本的には日帰り（半日預かり）の処置となります。

①診察

問診・診察にて口腔内の状況を把握し処置日を決定します。

②術前検査（処置の数日前）

麻酔のリスクを判定するために、術前の検査を実施します。必要に応じて血液検査・レントゲン検査・超音波検査・心臓検査などを組み合わせておこないます。

③預かり（処置当日）

午前中に来院いただき、診察後にお預かりします。準備を整え、全身麻酔をかけて歯科処置を実施します。

④迎え（午後の診察時間）

口の状況や処置内容について写真を見ながら説明します。良い状態を維持するために、今後の自宅でのケアや処置後の注意点について確認してから帰宅します。

実際の処置内容

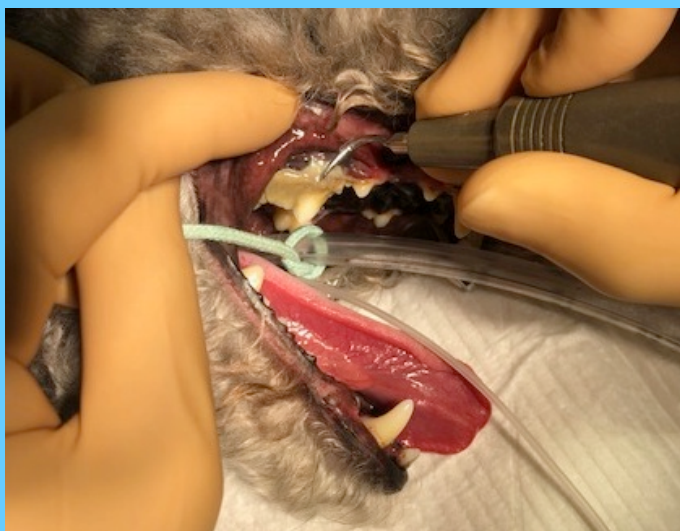
口腔内の確認

歯周病の程度を確認し、必要に応じてレントゲンを撮ります。その他、破折（はせつ）の有無や腫瘍などの疑いが無いか確認します。



スケーリング

口腔内の消毒をおこない、歯垢・歯石を取り除きます。



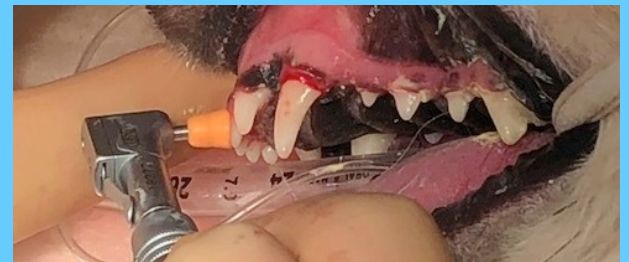
抜歯

再生が見込めない、温存が難しいと判断された歯は抜歯を検討します。抜歯後は歯肉の縫合をして歯根の穴や骨の露出を塞ぎます。



ルートプレーニングおよびキュレタージ

歯周ポケット内の掃除をおこないます。実際には、痛んだ組織を取り除き、歯肉の再生を促します。



ポリッシング

スケーリングだけでは歯の表面に凹凸があり、歯垢・歯石の再付着が ocorrênciaやすい状態です。歯の表面を研磨し、歯垢・歯石の再付着をおこしくします。



処置後

歯垢・歯石がなくなり、綺麗になった状態です。

全身麻酔は必要？

最近、無麻酔スケーリングという言葉を目にします。麻酔をかけずに口腔環境を整えることが出来れば理想だと思います。ただし、無麻酔でおこなえる処置には限りがあることに注意が必要です。

一般に3歳以上の成犬・成猫の8割以上は歯周病を抱えていると言われています。歯周病の予防で1番大切な事は歯周ポケットのケアです。この処置は動物が起きている状態での実施は難しく、動くと歯肉の損傷など危険も伴います。無麻酔スケーリングは何より動物にとってはストレスが大きく、その後の自宅での歯のケアをより難しくすることが想像できるでしょう。歯の表面の歯垢・歯石が取り除くことができ、見た目の改善や口臭の軽減ができて、歯周病の予防としては不十分であると考えられます。しっかりと歯のケアをおこなうには全身麻酔による不動化と違和感や痛みに対するケアも大切です。

ホームデンタルケア

歯磨きは歯垢を取り除く効果的な方法です。歯周病の予防としても、歯と歯肉の間隙（歯周ポケット）にブラシを通すことが大切です。しかし、歯磨きを嫌がる子が多いのではないのでしょうか？

小さい頃から少しずつトレーニングをおこない、慣らすことが大切です。3ステップで考えてみましょう。

STEP1 口を触られる事に慣らせましょう

まずは嫌がられずに何が出来るかを確認します。フードなどのご褒美を準備し、片手に持ちます。ご褒美を与えながらもう一方の手で、体は撫でられますか？頭は撫でられますか？口周りは触れますか？トレーニングに大切な事は嫌な事を無理にやらず、楽しい印象を与えながら少しずつ慣らす事です。口を触られる事を嫌がる場合は、ご褒美を使いながら、嫌がらずに触れる部位から時間をかけて口に近づけていきましょう（体→肩や首→頭や顎など）。

STEP2 指で歯や歯肉に触れられる事に慣らせましょう

口に触る事を嫌がらなければ、唇をめくる練習をします。唇をめくる事が出来れば、指で歯や歯肉にタッチしてみましょう。この時に歯磨きペーストなど好む物を指につけると受け入れやすくなる事もあります。タッチから始めて、少しずつ触る時間を延ばしていきます。

STEP3 歯ブラシを使って歯磨きをしましょう

最初は歯ブラシに慣らすため、指と同じように歯ブラシを歯にタッチする事から始めます。歯磨きペーストなどを使用してもいいでしょう。歯ブラシのタッチに抵抗が無ければ徐々に時間を延ばしていきます。歯磨きは犬歯や切歯など、磨きやすい場所から始めて徐々に奥の臼歯へ進めていきましょう。

*指で歯は触れるけど歯ブラシは難しい

歯ブラシを使用する前にデンタルガーゼや濡らしたガーゼでもう1STEP挟んでみてはいかがでしょうか？段階を踏むことで上手くいく事もあるでしょう。

*応用編

歯垢・歯石は犬歯や奥の方にある大きな臼歯に付着しやすいため意識してみましょう。更に歯石は歯の内側にも付着します。少しずつ内側も磨いてみましょう。嫌がる事も多いため、1回につき1本を短時間でおこない、無理しない事（嫌な印象を与えない事）も注意が必要です。

*歯磨きガムの与え方

長く色々な歯で噛ませる事がポイントです。ペットに与えてしまうと飲み込んでしまったり、短時間で食べてしまう事もあります。噛まれないように注意しながら、ガムを手で持ち、口の中を右から左など誘導してあげるとより効果的です。